

コード	402070901
記入日	H23.6.6

課コード	115
課名	農林課
課長名	幹 保孝
担当者	古川 利久

事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	森林保護管理費
----------	---------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 一 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	2
基本事業コード	40207	基本事業名称	林業の環境整備	目コード	2
事務事業コード	4020709	事務事業名称	森林保護管理費	細目コード	1039
関連計画		法令・条例規則等	森林病害虫等防除法		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象しているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 町内松林		(対象指標1) 1.45ha				
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・松林を保全するために、松くい虫の防除作業を行った。 →地上散布 1回 →樹幹注入 1回 →枯松伐倒 1回	***** 防除作業回数	***** 2回	***** 100%	防除作業回数+計画した防除作業回数	***** 平成22年度
		① (達成率分析) 医薬品については、現物にて購入し、散布、注入については現地にて確認した。	***** 枯松伐倒	***** 1回	***** 100%	実績数
		② (達成率分析) 枯れている松を伐倒し、処分までを確認した。				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
	・蛤、小浜、船崎地区の松林を、病害虫から守るため地上散布による駆除、幹に薬剤を注入する樹幹注入を実施する。	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		***** 松林面積	***** 1.45ha	***** 100%	松林面積1.45ha+前年度松林面積1.45ha	***** 平成22年度
		① (達成率分析) 散布、樹幹注入している箇所と天然に生えている箇所と比較調査をした結果、防除の効果がみられる。今後も松林の保全に努める。				
		② (達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 回	21	21	19	2	2					
	② 回	8	8	7	1	1					
成果指標	① ha	8.45	8.45	7	1.45	1.45					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	8,572	8,579	7,282	1,290	1,297					
直接事業費 A	千円	4,372	4,379	3,782	590	597					
人件費 B	千円	4,200	4,200	3,500	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.6	0.6	0.5	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	670	670	560	110	110				
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	7,902	7,909	6,722	1,180	1,187					

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	森林所有者として管理を行うべきである。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	松林は、防風林として保安林にも指定しており、この松林を守る義務がある。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	松林を守るために必要な経費である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	昨年は、全域で松の被害が多かった年であり、散布や樹幹注入をしてない松は、大半が枯れている。当該地の松は被害が少ない。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	成果は達成されているため向上する余地はないが、病気にならないためにも継続しなければならない。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	すぐに病害虫に浸食され、全部枯れてしまう恐れがある。また、松くい虫被害で枯れた場合は、伐倒し、焼却処分しなければならないので、費用がかかる。防風林の効果もなくなる。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	類似事業はない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	現時点でも、委託料については、必要最低限の経費であり、削減することはできない。医薬品については、薬品の変更などを行い減額に努める。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	最小の人員で行っているため、削減することはできない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	受益者負担は発生しない。

改善

改善策	1次評価	妥当性	松林の保全のためには、継続して行うべきである。
		有効性	有効的な新しい防除方法がない限りこの防除方法を継続する。
		効率性	委託先である森林組合にも、安価な経費でお願いしているため、これ以上の削減は厳しい。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	引き続き森林保護に努め、防風林・保安林としての機能維持を保持していくこと。
		効率性	経費の執行については適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。